

## 今年度調査のまとめ

今年度の調査では、弥生時代～古墳時代にかけての断続的な人々の生活の跡がみつかりました。

下半期の調査でみつかった2基の古墳は、近接して築かれていますが、それぞれ異なる埋葬施設を持つことがわかりました。特に古墳1の横穴式石室は、岡山県下でも最小規模であり注目されます。横穴式石室は時期が新しくなるにつれて小さくなり、追葬が可能な家族の墓から個人の墓に変わると考えられ、古墳1はそういった流れの中で造られた可能性があります。また古墳2や古墳3は竪穴式石室であることから、横穴式石室と並行して6世紀後半まで竪穴式石室をもつ古墳が造られていることが明らかになりました。

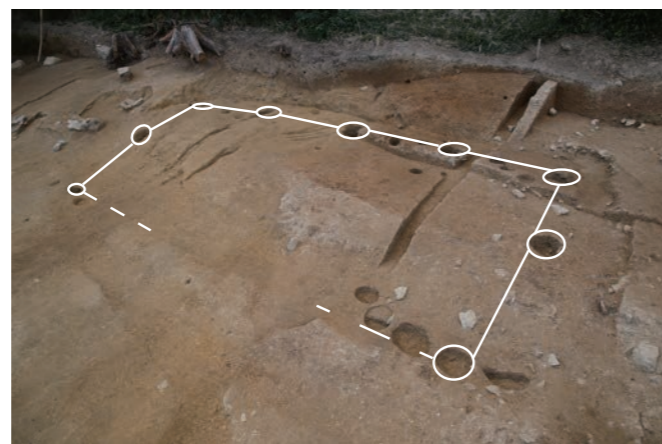
これらの調査成果は、この地域の埋葬に関する風習や葬られた人の地位を考えるうえで重要な手がかりとなります。

## 前回現地説明会の紹介（令和5年9月23日開催）

今年度上半期の調査成果としては、自然の窪み地形から弥生時代の石包丁や土器が出土し、また6世紀後半～7世紀初頭の段状遺構や6世紀後半の古墳（古墳3）などがみつかりました。古墳3は直径が約10mと推定される円墳で、埋葬施設は竪穴式石室です。石室内からは、須恵器（杯蓋）や鉄器が出土しました。



出土した石包丁



段状遺構（北東から）



古墳3 竪穴式石室（南東から）



古墳3 竪穴式石室遺物出土状況（南から）



# たか お み や ま え 高尾宮ノ前遺跡現地説明会資料

【日時】令和6年2月25日（日）  
10：00～、13：00～

【場所】津山市高尾  
高尾宮ノ前遺跡発掘調査現場

【主催】岡山県古代吉備文化財センター

## はじめに

岡山県古代吉備文化財センターでは、一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴い、高尾宮ノ前遺跡の発掘調査を行っています。

この遺跡は、津山市街地の南西に位置する嵯峨山の南東端、丘陵斜面上に立地しており、遺跡からは吉井川支流の皿川を眼下に望むことができます。この皿川兩岸の丘陵上には、200基近くの古墳が存在しており、「佐良山古墳群」と呼ばれています。

今年度下半期の調査では、新たに古墳が2基みつかりました。



第1図 調査地周辺の主な遺跡分布図 (1/20,000)  
※国土地理院 1/25,000「津山市西部」を一部改変



古墳1 横穴式石室



古墳2 竪穴式石室

新たに見つかった2基の古墳（南東から）

### 古墳 1

推定直径が5～6mの円墳で、埋葬施設は横穴式石室です。石室の大きさは、長さ約180cm、最大幅約48cm（奥壁側で35cm）、高さが約45cmです。古墳の斜面上部には溝（周溝）が掘られています。石室近くからは耳飾り（耳環）、周溝から須恵器（短頸壺）が出土しています。古墳の時期は7世紀代と考えられます。



斜め上から見た古墳（南東から）



横穴式石室（南西から）



周溝から出土した須恵器（西から）



石室近くから出土した耳飾り

### 古墳 2

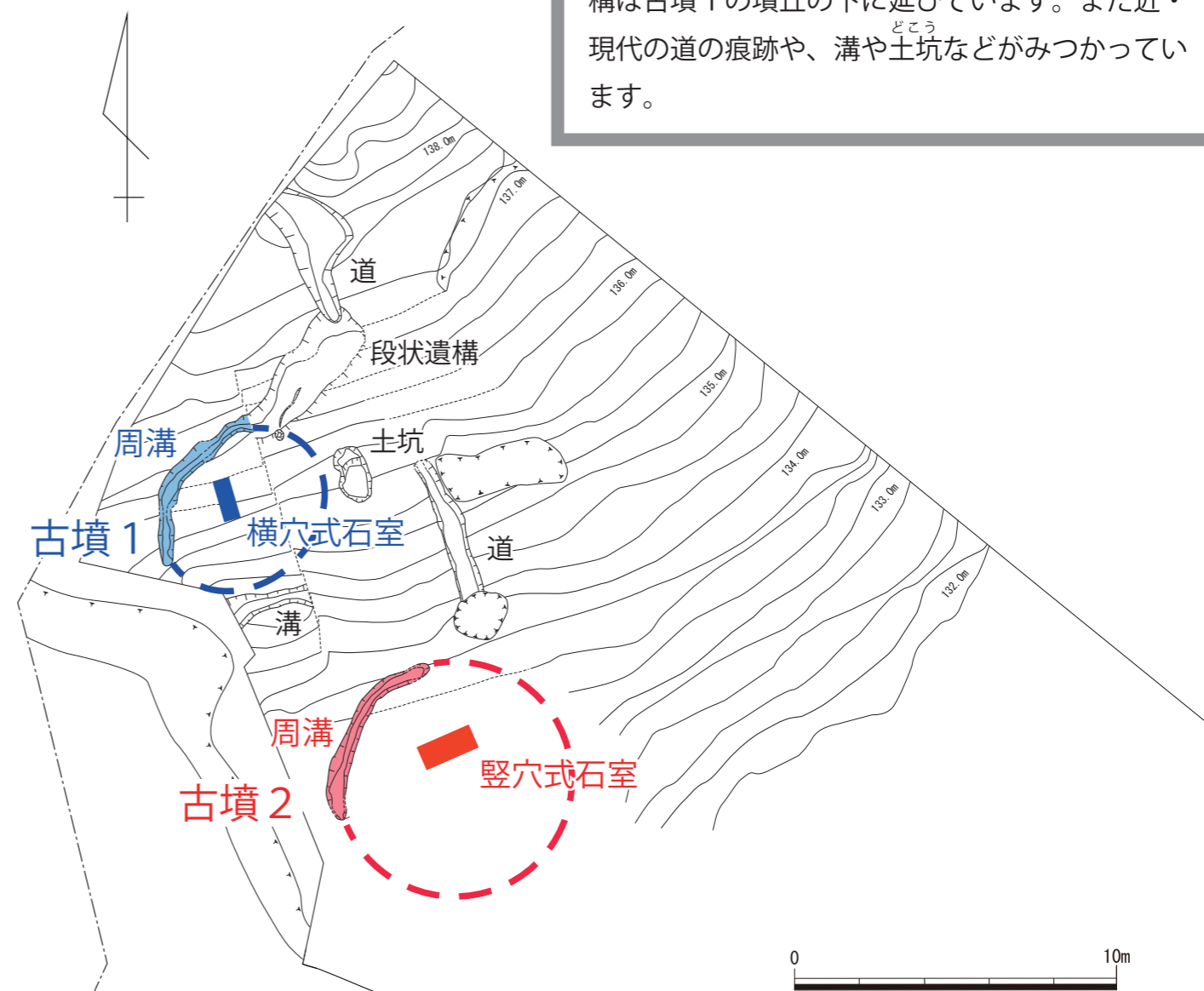
推定直径が7～8mの円墳で、埋葬施設は横穴式石室です。石室の大きさは、長さが約180cm、幅が約60～70cm、高さが約50cmです。古墳1と同様に周溝が掘られています。石室内からは須恵器（杯身）が、石室外からは須恵器（高杯）の破片が出土しました。古墳の時期は6世紀後半と考えられます。



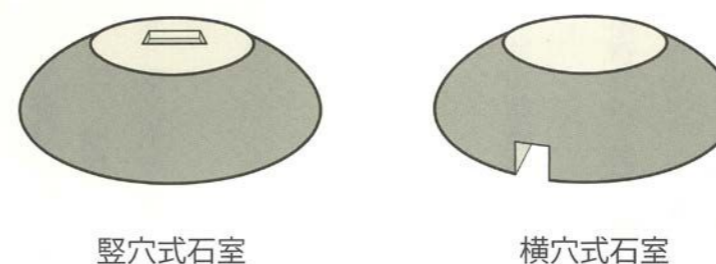
縦穴式石室（西から）

### その他の遺構

古墳時代以前の段状遺構（斜面を削平し、平坦面を作り出した遺構）がみつかりました。この遺構は古墳1の墳丘の下に延びています。また近・現代の道の痕跡や、溝や土坑などがみつかります。



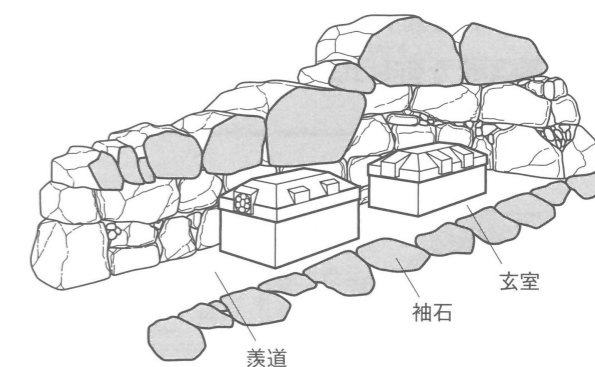
第2図 現地説明会会場 遺構全体図（1/200）



縦穴式石室

横穴式石室

第3図 石室位置イメージ図（出典の文献を一部改変）  
出典：赤磐市教育委員会 2019『赤磐市史跡シンポジウム 両宮山古墳以後—古墳時代後期の赤磐と倭王権—』シンポジウム記録集2



第4図 横穴式石室模式図（出典の文献を一部改変）  
出典：文化庁文化財部記念物課監修 2013『発掘調査のてびき 各種遺跡調査編』同成社